

# 令和5年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 2	公益目的事業 11
主査名	谷口綾子 筑波大学教授	
研究テーマ	自動運転システムの社会的受容を計測する標準的な指標提案に向けた学際的検討	
<b>研究の経過（4月～9月）：</b> 自動運転の社会的受容を把握するための指標を検討するに当たり、以下の作業を実施中である。 1) 自動運転の社会的受容を計測する指標について、国内外の既往文献をレビューしている。 2) 岐阜、柏など自動運転の実証実験を行っている研究者と連携し、標準的な指標を含むアンケート調査を実施中である。 3) 自動運転バスのエクステリアが一般車ドライバーの配慮意図に及ぼす影響分析の研究の中で、標準的な指標の主要部分を用いた WEB アンケート調査を企画中である。 4) 子どもの送迎行動が自動運転マイカーに置き換わった場合、親子間のコミュニケーションの質と量が変容する可能性について WEB アンケート調査を企画中である。		
<b>【研究会、視察】</b> 1) 2023年4月、米国サンフランシスコの Cruise 社を訪問し、試乗したほか、自動運転車両の実験場 GoMentum Station、小型2人乗り自動運転車両 Glydway 社を訪問し情報収集を行った。 2) 2023年5月16日ボードリー社がエストニアより輸入した自動運転バス mica の視察を行った。 3) 2023年7月25日自動運転バスのエクステリアの社会的受容に関する研究打ち合わせを行った。 4) 2023年9月12日、EUのSHOWプロジェクトとのミーティングにおいて、標準的な指標について議論するとともに、11月に来日する際にミーティングすることとなった。 5) 2023年9月14日-16日、北海道上士幌町にて研究会を開催するとともに、上士幌町の自動運転バスと町作りの視察を行った。		
<b>下期へ向けて（課題等）：</b> 自動運転バスの実証実験、本格運行が行われている地域の実情(観光地、過疎地、住宅地等々)に合わせて、評価指標をカスタマイズする必要がある、その検討事項についても今後整理したい。		